

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人北杜学園

(2) 大 学 名

仙台青葉学院短期大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒980-0021

宮城県仙台市青葉区中央四丁目 9 番30号

(〒984-0022 宮城県仙台市若林区五橋三丁目 5 番75号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(スズキ カズキ) 鈴木 一樹 (平成26年 4 月)		
学 長	(タバヤシ コウイチ) 田林 暁一 (令和 3 年 4 月)		
学科長	(アオヤマ ミチコ) 青山 美智子 (令和 5 年 4 月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和 5 年度に報告済の内容 → (5)

令和 6 年度に報告する内容 → (6)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称(学位)	学位又は学科 の分野	設 置 時 の 計 画				学生募集の停 止について	備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
救急救命学科 短期大学士 (救急救命学)	保健衛生学関係(看護学 関係及びリハビリテー ション関係を除く。)	2 年	40 人	2年次 0 人 3年次 - 人 4年次 - 人	80 人	-	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に入力してください。
・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分につい て	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	人 () [-]	40 () [-]	人 () [-]	40 () [-]	人 () [-]	-	0.78倍	-	
志願者数	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	62 [-]	() [-]	43 [-]	() [-]				
受験者数	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	58 [-]	() [-]	39 [-]	() [-]				
合格者数	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	53 [-]	() [-]	35 [-]	() [-]				
B 入学者数	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	() [-]	47 [-]	() [-]	33 [-]	() [-]				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	1.17	-	0.82	-				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
・ 転入学生は記入しないでください。
・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設置を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」に「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。
(春季入学以外の学期区分の設置を予定していない場合は「-」を選択)
・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
・ 「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	30 [—] (—)	— [—] (—)	33 [—] (—)	— [—] (—)	
2 年次			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	30 [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次					— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4 年次							— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	30 [—] (—)	— [—] (—)	63 [—] (—)	— [—] (—)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
- また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	47 人	17 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	17 人	0 人	就学意欲の低下(11人)、他の教育機関へ転学(1人)、学業不振(4人)、その他(1人)
令和6年度	63 人	0 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
合 計		17 人		17 人	0 人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{17}{47} = \boxed{36.17} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{63} = \boxed{0} \%$$

- (注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

＜救急救命学科＞

【認可時又は届出時】

【令和6年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担		
				必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	1前	1									1	
		英語	1後	1									1	
	人間と社会	現代の社会	1後	2									1	
		法律入門	1後	2									1	
	人間と科学	情報処理	1後	1									1	
		数理リテラシー	2前	1								1		
小計（6科目）			-	8	0	0	0	0	0	0	0	5		
専門教育分野	専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖生理学	1前	1								1	
			人体構造と機能Ⅰ	1前	1								1	
			人体構造と機能Ⅱ	1前	1								1	
			人体構造と機能Ⅲ	1前	1								1	
		疾患の成り立ちと回復の過程	薬理学	1前	1									1
			病理学	1後	1									1
			微生物学	1後	1									1
			法医学	2後	1									1
		健康と社会保障	社会保障論	1後	1			1						
			地域福祉論	2前	1			1						
	小計（10科目）			-	10	0	0	1	0	0	0	0	6	
	専門展開科目	救急医学概論	医学概論	1前	1			1						
			救急救命医療概論	1前	2				1					
			救急救命処置概論	1後	2				1					
			感染症と災害医療	2後	1				1					
		救急症候・病態生理学	救急病態生理学	1前	2									1
			救急症候学Ⅰ	1前	2				1					
			救急症候学Ⅱ	1後	2				1					
			救急症候学Ⅲ	1後	2				1					
		疾病救急医学	疾病救急医学Ⅰ	1前	2			1						
			疾病救急医学Ⅱ	1前	2									1
疾病救急医学Ⅲ			1後	2				1						
疾病救急医学Ⅳ	1後		2						1					
外傷救急医学	外傷学Ⅰ	1前	2				1							
	外傷学Ⅱ	1後	2							1				
	環境障害・急性中毒学	環境障害・急性中毒学	2前	1				1						
臨地実習	救急救命シミュレーションⅠ	1前	5				1	2				2		
	救急救命シミュレーションⅡ	1後	5				1	1				2		
	救急救命シミュレーションⅢ	2前	5				1	1				2		
	救急救命シミュレーションⅣ	2後	5					2				2		
	臨床実習	2通	4				1	2						
	救急用自動車同乗実習	2通	1				1	2						
小計（21科目）			-	52	0	0	1	2	0	1	0	2		
合計（37科目）			-	70	0	0	2	2	0	1	0	13		
卒業要件及び履修方法														
卒業要件は70単位とする。 なお、「教養教育分野」から必修科目8単位、「専門教育分野」から必修科目62単位を修得すること。 （履修科目の登録の上限：50単位（年間））														

【令和5年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担			
				必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
教養教育分野	人間と文化	日本語表現法	1前	1									1		
		英語	1後	1									1		
	人間と社会	現代の社会	1後	2									1		
		法律入門	1後	2									1		
	人間と科学	情報処理	1後	1									1		
		数理リテラシー	2前	1								1			
小計（6科目）			-	8	0	0	0	0	0	0	0	5			
専門教育分野	専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖生理学	1前	1									1	
			人体構造と機能Ⅰ	1前	1									1	
			人体構造と機能Ⅱ	1前	1									1	
			人体構造と機能Ⅲ	1前	1									1	
		疾患の成り立ちと回復の過程	薬理学	1前	1										1
			病理学	1後	1										1
			微生物学	1後	1										1
			法医学	2後	1										1
		健康と社会保障	社会保険論	1後	1			1							
			地域福祉論	2前	1			1							
		小計（10科目）			-	10	0	0	1	0	0	0	0	6	
		専門展開科目	救急医学概論	医学概論	1前	1			1						
				救急救命医療概論	1前	2				1					
				救急救命処置概論	1後	2			1						
	感染症と災害医療			2後	1			1							
	救急症候・病態生理学		救急病態生理学	1前	2						1				
			救急症候学Ⅰ	1前	2				1						
			救急症候学Ⅱ	1後	2				1						
			救急症候学Ⅲ	1後	2				1						
	疾病救急医学		疾病救急医学Ⅰ	1前	2			1							
			疾病救急医学Ⅱ	1前	2						1				
			疾病救急医学Ⅲ	1後	2				1						
			疾病救急医学Ⅳ	1後	2						1				
	外傷救急医学		外傷学Ⅰ	1前	2				1						
			外傷学Ⅱ	1後	2						1				
	環境障害・急性中毒学		環境障害・急性中毒学	2前	1				1						
	臨地実習		救急救命シミュレーションⅠ	1前	5			1	2					1	
			救急救命シミュレーションⅡ	1後	5			1	1		1			1	
			救急救命シミュレーションⅢ	2前	5			1	1		1			1	
		救急救命シミュレーションⅣ	2後	5				2		1			1		
		臨床実習	2通	4			1	2		1					
		救急用自動車同乗実習	2通	1			1	2		1					
小計（21科目）			-	52	0	0	1	2	0	1	0	1			
合計（37科目）			-	70	0	0	2	2	0	1	0	12			
卒業要件及び履修方法															
卒業要件は70単位とする。 なお、「教養教育分野」から必修科目8単位、「専門教育分野」から必修科目62単位を修得すること。 （履修科目の登録の上限：50単位（年間））															

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
- (例：記載順) 【認可時又は届出時】→【令和6年度】(新)→【令和5年度】(新)→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度】(旧)→【令和

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和5年度】

特になし。

【令和6年度】

- ・助教1名が産休・育休により、以下科目の専任教員等の配置を変更
「救急病態生理学」「疾病救急医学Ⅱ」→「助教1」から「兼任1」
「救急救命シミュレーションⅡ」「救急救命シミュレーションⅢ」→「教授1、准教授1、助教1、兼任1」から「教授1、准教授1、兼任2」
「救急救命シミュレーションⅣ」→「准教授2、助教1、兼任1」から「准教授2、兼任2」
「臨床実習」「救急用自動車同乗実習」→「教授1、准教授2、助教1」から「教授1、准教授2」
- ・より教育効果を高めるため、「救急救命シミュレーションⅠ」を「兼任1」から「兼任2」に変更
- ・助教1名が産休・育休により、「疾病救急医学Ⅳ」「外傷学Ⅱ」は後任未定のため公募中

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
37 科目	0 科目	0 科目	37 科目	37 科目	0 科目	0 科目	37 科目	
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{37} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	共用 体育館敷地 (3,318.36㎡)・課 外活動施設敷地 (6,383.47㎡)・宮 床運動場(2,874.00 ㎡)・栗生運動場 (621.59㎡) 仙台医療福祉専門学 校・仙台大原簿記情 報公務員専門学校・ 仙台工科専門学校・ 仙台デザイン専門学 校(面積基準なし)			
	校 舎 敷 地	8,137.72㎡	9,701.83㎡	1,312.53㎡	19,152.08㎡				
	運動場用地	0㎡	3,495.59㎡	0㎡	3,495.59㎡				
	小 計	8,137.72㎡	13,197.42㎡	1,312.53㎡	22,647.67㎡				
	そ の 他	0㎡	156.00㎡	0㎡	156.00㎡				
	合 計	8,137.72㎡	13,353.42㎡	1,312.53㎡	22,803.67㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		29,927.94㎡	0㎡	0㎡	29,927.94㎡				
		(29,927.94㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(29,927.94㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	一部他学科と共用 多目的室1室を図書館 に用途変更(5)			
	11室	6室 7室	1室	1室 (補助職員 一人)	0室 (補助職員 一人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	救急救命学科			5 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	短期大学全体での共 用分 図書35,43634-266 [2,557] -[2-603]- 冊、学術雑誌114110 [8] -[11]-種、電子 ジャーナル1222 [122] -[1]-種、視 聴覚資料1,1171-006 点 令和5年5月1日現在の 情報に更新(5) 図書、雑誌等の充実 による増(6)	
	救急救命学科	1,700 [3] (1,600 [3])	6 [0] (6 [0])	0 [0] (0 [0])	20 (20)	250 (150)	10 (10)		
	計	1,700 [3] (1,600 [3])	6 [0] (6 [0])	0 [0] (0 [0])	20 (20)	250 (150)	10 (10)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		救急救命学科が主に 使用する中央第2キャン パスにも図書館を 設置したことによる 面積等の増加(5)		
	199.41㎡ 148-37㎡		53席 42席		14,280冊 11,000冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				短期大学全体 仙台青葉学院大学、 専門学校4校との共用		
	1,542.13㎡		該当なし						
(8) 経費の見 積り及び 維持方法 の概要	経費の見 積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	200千円	200千円	図書購入費	600千円	600千円	600千円	
		共同研究費等	5,000千円	5,000千円	設備購入費	107,000千円	20,000千円	20,000千円	
	学生1人当 り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,550千円	1,300千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、雑収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	仙台青葉学院短期大学										収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科のみ)	開設 年度	所在地	備 考			
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度					
看護学科	3	—	—	—	短期大学士 (看護学)	—	—	—	平成21	宮城県仙台市若林区五橋三丁目5番75号	令和6年度入学生より学生募集停止			
こども学科	2	100	—	200	短期大学士 (こども学)	0.77	—	—	平成25	同上				
リハビリテーション学科	3	—	—	—	—	—	—	—	平成25	宮城県仙台市太白区長町四丁目3番55号	令和6年度入学生より学生募集停止			
理学療法学専攻	3	—	—	—	短期大学士 (理学療法学)	—	—	—	平成25					
作業療法学専攻	3	—	—	—	短期大学士 (作業療法学)	—	—	—	平成25		令和6年度入学生より学生募集停止			
歯科衛生学科	3	70	—	210	短期大学士 (歯科衛生学)	0.95	—	—	平成26	宮城県仙台市青葉区中央四丁目5番3号				
栄養学科	2	75	—	150	短期大学士 (栄養学)	0.91	—	—	平成27	同上				
現代英語学科	2	35	—	70	短期大学士 (英語)	0.68	—	—	令和元	同上				
言語聴覚学科	3	40	—	120	短期大学士 (言語聴覚学)	0.98	—	—	令和3	同上				
ビジネスキャリア学科	2	155	—	310	短期大学士 (ビジネスキャリア学)	1.07	—	—	平成21	宮城県仙台市青葉区中央四丁目9番30号				
観光ビジネス学科	2	50	—	100	短期大学士 (観光ビジネス学)	1.02	—	—	平成28	同上				
救急救命学科	2	40	—	80	短期大学士 (救急救命学)	0.78	—	—	令和5	同上				
短期大学全体	2 3	565	—	1,240	—	—	—	—	—	—				

(注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「—」とした上で、「非表示」設定としてください。
 ・学部・学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
 ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

<救急救命学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	青山 美智子 (65) <令和5年4月> 修士(社会福祉学)
		社会保障論
		地域福祉論
専	教授	堀口 雅司 (54) <令和5年4月> 修士(救急救命学)
		医学概論
		救急救命処置概論
		疾病救急医学Ⅰ
		救急救命シミュレーションⅠ
		救急救命シミュレーションⅡ
		救急救命シミュレーションⅢ
		臨床実習
		救急用自動車同乗実習
専	准教授	鈴木 宏俊 (63) <令和5年4月> 高等学校
		救急救命学Ⅱ
		疾病救急医学Ⅲ
		外傷学Ⅰ
		環境障害・急性中毒学
		救急救命シミュレーションⅠ
		救急救命シミュレーションⅢ
		救急救命シミュレーションⅣ
		臨床実習
		救急用自動車同乗実習
専	准教授	平川 正隆 (60) <令和5年4月> 学士(法学)
		救急救命医療概論
		感染症と災害医療
		救急救命学Ⅰ
		救急救命学Ⅲ
		救急救命シミュレーションⅠ
		救急救命シミュレーションⅡ
		救急救命シミュレーションⅣ
		臨床実習
		救急用自動車同乗実習
専	助教	横山(佐藤) 亜矢 (37) <令和5年4月> 専修学校
		救急救命生理学
		疾病救急医学Ⅱ
		疾病救急医学Ⅳ
		外傷学Ⅱ
		救急救命シミュレーションⅡ
		救急救命シミュレーションⅢ
		救急救命シミュレーションⅣ
		臨床実習
		救急用自動車同乗実習
兼任	教授	小野寺 健 (60) <令和5年4月> 歯学博士
		解剖生理学
兼任	教授	山田 文也 (62) <令和5年4月> 博士(獣医学)
		微生物学
兼任	講師	相田 明子 (50) <令和5年4月> 修士※(文学)
		英語

【令和5年度】

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	青山 美智子 (66) <令和5年4月> 修士(社会福祉学)
		社会保障論
		地域福祉論
専	教授	堀口 雅司 (55) <令和5年4月> 修士(救急救命学)
		医学概論
		救急救命処置概論
		疾病救急医学Ⅰ
		救急救命シミュレーションⅠ
		救急救命シミュレーションⅡ
		救急救命シミュレーションⅢ
		臨床実習
		救急用自動車同乗実習
専	准教授	鈴木 宏俊 (64) <令和5年4月> 高等学校
		救急救命学Ⅱ
		疾病救急医学Ⅲ
		外傷学Ⅰ
		環境障害・急性中毒学
		救急救命シミュレーションⅠ
		救急救命シミュレーションⅢ
		救急救命シミュレーションⅣ
		臨床実習
		救急用自動車同乗実習
専	准教授	平川 正隆 (61) <令和5年4月> 学士(法学)
		救急救命医療概論
		感染症と災害医療
		救急救命学Ⅰ
		救急救命学Ⅲ
		救急救命シミュレーションⅠ
		救急救命シミュレーションⅡ
		救急救命シミュレーションⅣ
		臨床実習
		救急用自動車同乗実習
専	助教	横山(佐藤) 亜矢 (38) <令和5年4月> 専修学校
		救急救命生理学
		疾病救急医学Ⅱ
		疾病救急医学Ⅳ
		外傷学Ⅱ
		救急救命シミュレーションⅡ
		救急救命シミュレーションⅢ
		救急救命シミュレーションⅣ
		臨床実習
		救急用自動車同乗実習
兼任	教授	小野寺 健 (61) <令和5年4月> 歯学博士
		解剖生理学
兼任	教授	山田 文也 (63) <令和5年4月> 博士(獣医学)
		微生物学
兼任	講師	相田 明子 (51) <令和5年4月> 修士※(文学)
		英語

【令和6年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	青山 美智子 (67) ＜令和5年4月＞ 修士（社会福祉学）
		社会保障論
		地域福祉論
専	教授	堀口 雅司 (56) ＜令和5年4月＞ 修士（救急救命学）
		医学概論
		救急救命処置概論
		疾病救急医学Ⅰ
		救急救命シミュレーションⅠ
		救急救命シミュレーションⅡ
		救急救命シミュレーションⅢ
		臨床実習
		救急用自動車同乗実習
		専
救急症候学Ⅱ		
疾病救急医学Ⅲ		
外傷学Ⅰ		
環境障害・急性中毒学		
救急救命シミュレーションⅠ		
救急救命シミュレーションⅢ		
救急救命シミュレーションⅣ		
臨床実習		
救急用自動車同乗実習		
専	准教授	平川 正隆 (62) ＜令和5年4月＞ 学士（法学）
		救急救命医療概論
		感染症と災害医療
		救急症候学Ⅰ
		救急症候学Ⅲ
		救急救命シミュレーションⅠ
		救急救命シミュレーションⅡ
		救急救命シミュレーションⅣ
		臨床実習
		救急用自動車同乗実習
専	助教	横山（佐藤） 亜矢 (39) ＜令和5年4月＞ 専修学校
後任未定		疾病救急医学Ⅳ 外傷学Ⅱ
兼任	教授	小野寺 健 (62) ＜令和5年4月＞ 歯学博士
		解剖生理学
兼任	教授	山田 文也 (64) ＜令和5年4月＞ 博士（獣医学）
		微生物学
兼任	准教授	相田 明子 (52) ＜令和5年4月＞ 修士※（文学）
		英語

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	吉田 理 (52) ＜令和5年4月＞ 修士（学術）
		日本語表現法 現代の社会
兼任	講師	鈴木 一樹 (52) ＜令和5年4月＞ 法務博士（専門職）
		法律入門
兼任	講師	杉崎 新一 (58) ＜令和5年4月＞ 経済学士
		情報処理
兼任	講師	今村 博之 (57) ＜令和6年4月＞ 農学士
		数理リテラシー
兼任	講師	櫻井 雅浩 (59) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		人体構造と機能Ⅰ
		人体構造と機能Ⅱ
		人体構造と機能Ⅲ
兼任	講師	柳澤 輝行 (71) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		薬理学
兼任	講師	鈴木 貴 (57) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		病理学
兼任	講師	舟山 真人 (64) ＜令和6年4月＞ 医学博士
		法医学
兼任	講師	佐藤 武諭毅 (34) ＜令和5年4月＞ 専修学校
		救急救命シミュレーションⅠ
		救急救命シミュレーションⅡ
		救急救命シミュレーションⅢ
		救急救命シミュレーションⅣ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	吉田 理 (53) ＜令和5年4月＞ 修士（学術）
		日本語表現法 現代の社会
兼任 教授		鈴木 一樹 (53) ＜令和5年4月＞ 法務博士（専門職）
		法律入門
兼任	講師	杉崎 新一 (59) ＜令和5年4月＞ 経済学士
		情報処理
兼任	講師	今村 博之 (58) ＜令和6年4月＞ 農学士
		数理リテラシー
兼任	講師	櫻井 雅浩 (60) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		人体構造と機能Ⅰ
		人体構造と機能Ⅱ
		人体構造と機能Ⅲ
兼任	講師	柳澤 輝行 (72) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		薬理学
兼任	講師	三木 康宏 (52) ＜令和5年4月＞ 博士（医学）
		病理学
兼任	講師	舟山 真人 (65) ＜令和6年4月＞ 医学博士
		法医学
兼任	講師	佐藤 武諭毅 (35) ＜令和5年4月＞ 専修学校
		救急救命シミュレーションⅠ
		救急救命シミュレーションⅡ
		救急救命シミュレーションⅢ
		救急救命シミュレーションⅣ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	吉田 理 (54) ＜令和5年4月＞ 修士（学術）
		日本語表現法 現代の社会
兼任 教授		鈴木 一樹 (54) ＜令和5年4月＞ 法務博士（専門職）
		法律入門
兼任	講師	杉崎 新一 (60) ＜令和5年4月＞ 経済学士
		情報処理
兼任	講師	前田 幸仁 (49) ＜令和6年4月＞ 専修学校
		数理リテラシー
兼任	講師	櫻井 雅浩 (61) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		人体構造と機能Ⅰ
		人体構造と機能Ⅱ
		人体構造と機能Ⅲ
兼任	講師	柳澤 輝行 (73) ＜令和5年4月＞ 医学博士
		薬理学
兼任	講師	三木 康宏 (53) ＜令和5年4月＞ 博士（医学）
		病理学
兼任	講師	舟山 真人 (66) ＜令和6年4月＞ 医学博士
		法医学
兼任	講師	佐藤 武諭毅 (36) ＜令和5年4月＞ 専修学校
		救急病態生理学
		疾病救急医学Ⅱ
		救急救命シミュレーションⅠ
		救急救命シミュレーションⅡ
兼任 講師		救急救命シミュレーションⅢ
		救急救命シミュレーションⅣ
		門間 純大 (25) ＜令和6年4月＞ 専修学校
		救急救命シミュレーションⅠ
		救急救命シミュレーションⅡ
		救急救命シミュレーションⅢ
		救急救命シミュレーションⅣ

- （注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目名を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和5年度】

- ・鈴木一樹の職位を、講師（兼任）から教授（兼任）に変更
- ・鈴木貴講師（兼任）から三木康宏講師（兼任）に変更

【令和6年度】

- ・今村博之講師（兼任）から前田幸仁講師（兼任）に変更

- ・横山（佐藤）亜矢助教が産休・育休により、以下のとおり担当教員を変更

「救急病態生理学」「疾病救急医学Ⅱ」→佐藤武諭毅講師（兼任）

「救急救命シミュレーションⅡ」「救急救命シミュレーションⅢ」→堀口雅司教授（専任）、平川正隆准教授（専任）、佐藤武諭毅講師（兼任）、門間純大講師（兼任）

「救急救命シミュレーションⅣ」→鈴木宏俊准教授（専任）、平川正隆准教授（専任）、佐藤武諭毅講師（兼任）、門間純大講師（兼任）

「臨床実習」「救急用自動車同乗実習」→堀口雅司教授（専任）、鈴木宏俊准教授（専任）、平川正隆准教授（専任）

- ・横山（佐藤）亜矢助教が産休・育休により、「疾病救急医学Ⅳ」「外傷学Ⅱ」は後任未定のため公募中

- ・より教育効果を高めるため、門間純大講師（兼任）を「救急救命シミュレーションⅠ」の担当に追加

- ・相田明子の職位を、講師（兼任）から准教授（兼任）に変更

(注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**原則としてＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ませ**
- ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。

なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。

- ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2) - ② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
4	2
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
2	2	0	1	5	0	2	2	0	1	5	0
(2)	(2)	(0)	(1)	(5)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
2	2	0	1	5	0	2	2	0	1	5	0
(2)	(2)	(0)	(1)	(5)	(0)	(2)	(2)	(0)	(1)	(5)	(0)

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
助教以上 65 60 歳	2	2
	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{5}{5} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{5} = \boxed{40} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
		該当なし											
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合 計 (F)						後任補充状況の集計 (G)							
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合 計 (D) + (F)						後任補充状況の集計 (E) + (G)				
辞任等した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{5} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ 令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員について**、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。
- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」

・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」

・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記（3）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

7 その他全般的事項

<救急救命学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
施設 多目的室③ 51.04㎡	救急救命学科が主に使用する中央第2キャンパスから徒歩1～2分程の距離に中央キャンパス図書館があるが、第2キャンパスにも図書館を設置し、より快適で利便性の高い学修環境を提供するため、多目的室7室のうち1室を図書館に用途変更（面積の変更はなし）。 （救急救命士学校としての校舎の各室の用途及び面積の変更について、令和5年1月30日付にて、文部科学大臣承認）

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制 a 委員会の設置状況 全学委員会の1つとしてFD・SD委員会を設置し、運営している。 【添付資料】仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学 FD・SD委員会規程 b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 令和5年度は、FD・SD委員会を全12回開催した。委員が複数キャンパスに分かれていることから、各回オンライン（一部回はメール審議）での開催となった。 参加状況については、授業・実習によるやむを得ない理由での欠席があった以外は、おおむね全回、全員が出席した。 今年度は4月から、令和6年4月開学の仙台青葉学院大学と合同にて委員会を開催し、授業評価アンケートの活用制度等について検討を行っている状況である。 c 委員会の審議事項等 仙台青葉学院大学・仙台青葉学院短期大学 FD・SD委員会規程 第6条 （1）FD・SDの全体企画及び実施計画の立案、実施に関する事項 （2）FD・SD活動に関する評価に関する事項 （3）FD・SDに係る情報収集及び提供に関する事項 （4）FD・SD活動に関する制作物の刊行に関する事項 （5）学生授業評価アンケートに関する事項 （6）その他FD・SD活動に関する事項 ② 実施状況 a 実施内容 ・全学FD・SD研修会の開催 ・学科FD研修会の開催 b 実施方法 ・全学FD・SD、学科FD研修会 全学を対象とした研修会へ積極的に参加するとともに、学科の特性を踏まえた学科FD研修会を企画、実施した。	
--	--

全学については、Zoomの活用とオンデマンドによる受講も可能であったため、柔軟に対応することができた。
今年度も全学のFD・SD研修会へ参加するほか、学科独自のFD活動についても引き続き実施していく。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

・全学FD・SD研修会（FD・SD委員会以外の委員会等開催分を含む。）

① 「一般財団法人大学・短期大学基準協会 機関別評価結果の概要について」（自己点検・評価委員会主催）
令和5年9月13日／Zoom・オンデマンド／教職員137人参加

② 「令和5年度第1回 ICTセミナー」（IR・情報化推進室主催）
令和5年9月15日／対面・オンデマンド／教職員108人参加

③ 「大学の教育現場で起こりやすいハラスメント」（ハラスメント委員会主催）
令和5年11月2日／対面・オンデマンド／教職員98人参加

④ 「高等教育を取り巻く環境と教職員の役割～社会に支持される短大・大学を目指して～」
（FD・SD委員会主催）
令和5年11月21日／対面／教職員64人参加

⑤ 「学校法人基礎調査・私立大学等経常費補助金に関するSD」（法人本部企画部事業推進センター主催）
令和5年12月27日／対面／20人参加

⑥ 「令和5年度第2回 ICTセミナー」（IR・情報化推進室主催）
令和6年3月12日／対面・オンデマンド／教職員114人参加

⑦ 「令和5年度 学内研究発表会」（研究推進・紀要委員会主催）
令和6年3月14日／対面／教職員69人参加

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

コロナ禍により急速に変化した授業の実施形態に対応できるよう、ICTセミナーを複数回実施した。内容は、授業での具体的な活用事例や、課題出題や評価における事例など、授業改善において実効性の高い情報をFD研修会を通じて学ぶことができた。今後も継続して全学的に実施予定である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

原則として、各授業科目の最終日に実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

・授業評価アンケート結果は冊子にまとめ、各キャンパスの図書館・事務室（非常勤講師控室）及び各学科長室等に備え置き、学生及び教員に公開する。

・科目担当教員に対しては、担当科目分の集計データ及び自由記述をまとめた集計結果をフィードバックする。科目担当教員はその結果を踏まえ、授業への取り組みを見直し、改善報告を提出する。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

別紙のとおり

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

令和5年度自己点検・評価報告書は、令和6年6月末公表予定

b 公表方法

本学ホームページ上に公表予定（令和6年6月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

評価機関（一般財団法人大学・短期大学基準協会）による認証評価を受審。評価の結果、適格と認定された。
次回は令和11年を予定している。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ☒ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

(別紙) 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置の趣旨・目的の達成状況について

1. 教育課程編成及び教員組織について

令和6年度末で完成年度を迎えるが、学科設置2年目についても、設置計画どおりの教育課程を編成し、また未開講・廃止科目もなく順調に運営している。令和8年度に向け、学生の到達状況や教育効果を踏まえた教育課程の見直しを今後検討予定である。

また、教員組織については、今年の4月から産休・育休を取得している専任教員(助教)が1名いるが、実務経験豊富な非常勤講師と専任教員が一層密に連携の上、4月から授業運営に当たっている。同時に、専任教員の新規採用活動を行っているところである。引き続き、正確な知識と実践的な技術をもって適切な救急救命を実践し得る救急救命士を養成すべく、学科運営に努める。

2. 教育方法について

今年度も入学者に対するオリエンテーションでは、学生便覧、シラバスを基に、学生生活全般、また教育課程の体系、各授業科目の学修成果、履修に係ることについての説明を入念に行った。

また、履修に関して、特にGPAについては制度概要等を説明し、今後様々な活用方法が考えられることから、計画的に学修するよう指導した。

学生生活に関わる事項については、心の健康については臨床心理士等が、就職や進学支援等については学生総合支援センターの専任職員が中心となり、学生の現状に合わせた必要な支援を行っている。

なお、昨年度は、高校と大学での学修に戸惑い、思うように学修が進まずに退学に至った学生が複数いる。初年次教育はもとより、入学初期の段階から、学生生活全般も含め一層注視し、専任教員一体となって支援に努めているところである。

3. 入学者の状況について

2024年度入学試験において、入学定員40人に対して入学者は33人となり、入学定員を下回る結果となった。この結果については、学科はもとより、大学全体としても危機感を持ち、学生募集について種々議論、検討を重ね、対策を講じているところである。学生募集活動に際しては、入学定員確保が重要である一方、救急救命士について十分に理解し、本学科のアドミッション・ポリシーに見合った入学者を確保することに留意の上、大学一体となって入学定員の確保に努めていく。